



◇1970年代を中心としたモノクロ写真は稲田郷土史会の提供です



50周年ロゴマーク
 多摩川やニヶ領用水のせせらぎとそこに憩うカワセミ。緑豊かなこの地の特徴を表し、多摩川梨もモチーフになっています。

50周年キャッチフレーズ ～人と緑でつながる多摩区～
 水辺や緑地の自然を身近に感じられるとともに、今も残る伝統的な祭りで見知らぬ人との交流も生まれます。人と自然、人と人のつながるすばらしさを将来にもつないでほしいという思いが込められています。

2022年は多摩区制50周年

多摩区は1972年4月、川崎市が政令指定都市に移行したことに伴って誕生しました。1982年7月には北西部が麻生区として分区され、現在に至ります。「多摩川梨」の栽培で知られるように、かつては農村地帯としての景観を多く残していた多摩区。都心への交通の便の良さなどから大規模な宅地開発が行わ

れ、登戸では1988年から土地区画整理事業が進められてきました。2002年には人口が20万人を超えました。現在は、小田急電鉄による向ヶ丘遊園跡地の開発や、川崎フロンターレと市が連携した「フロントウン生田」の建設が進むなど、まちが発展し続けています。